

# イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/3/27作成 (株)新出光

## 【概況】<米銀の経営破綻・クレディスイス買収合意>

●17日、経営破綻した米中堅銀行シリコンバレー銀行(SVB)の親会社、SVBファイナンシャル・グループはこの日、連邦破産法11条(日本の民事再生法に相当)の適用を申請したと発表した。これをきっかけに、幾分後退していた金融不安が再燃。投資家のリスク回避の動きが強まり、株式と並びリスク資産とされる原油は売りにさらされ相場は66.74ドルへ下落しました。

●20日、スイス金融最大手UBSは19日、経営危機に陥った同業クレディ・スイスを30億スイスフラン(約4300億円)で買収することで合意したと発表した。また、FRBや日銀など日米欧の6中央銀行は、米ドルの資金供給を毎日実施する拡充策で協調することを決定。これらをきっかけに過度なリスク警戒感が後退し相場は67.64ドルへ下落しました。

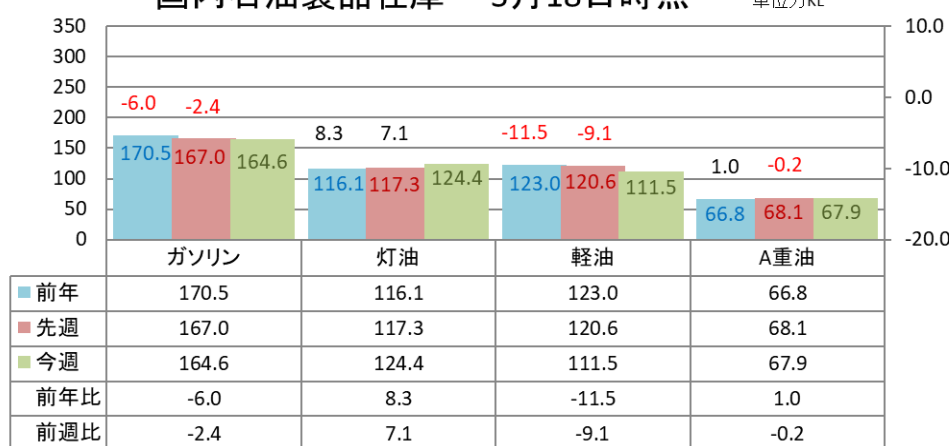
●21日、米銀の相次ぐ経営破綻をきっかけとした欧米の金融システム不安が深刻化し、世界に波及するとの懸念が薄らいだ。また、イエレン米財務長官は21日にワシントン市内の講演で、銀行が取り付け騒ぎに見舞われた際の預金全額を保護すると明言。市場の不安心理が改善し、リスク資産である原油に買いが入り相場は69.33ドルへ反発しました。

●22日、この日の外国為替市場では対ユーロでドルが下落。ドル建てで取引される原油に割安感が生じ、買いが優勢となり相場は70.9ドルへ反発しました。ただし、米エネルギー情報局(EIA)が午前発表した週報によると、17日時点の米原油在庫が110万バレル増と、市場予想(160万バレル減=ロイター通信調べ)に反して積み増しとなった。エネルギー需給逼迫懸念が弱まったため、一時売りが優勢となり、68ドル台まで下げる場面もありました。

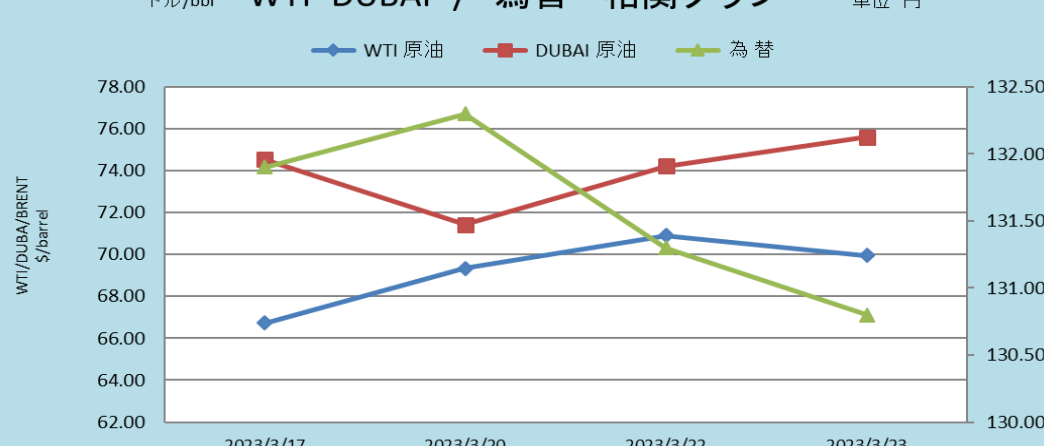
●23日、米エネルギー省のグランホルム長官は、一連の放出を受け、戦略石油備蓄(SPR)の補充には数年かかるかもしれないと発言した。同省は既に、さらに2600万バレルの備蓄放出を決めているとの事で、エネルギー需給が緩むとの懸念から売りが優勢となり相場は69.96ドルへ反落しました。

3月24日 16:00現在 WTI原油 68.63ドル 為替 1ドル 134.54円

国内石油製品在庫 3月18日時点 単位万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ 単位 円



	次回元売変動予測	
	3/30~	元売変動予測
ガソリン	➡	+0.6~+1.1
灯油	➡	+0.6~+1.1
軽油	➡	+0.6~+1.1
A重油	➡	+0.6~+1.1
LSA	➡	+0.6~+1.1

※原油コスト「-1.0~-1.5円」  
 ※激変緩和補助金「-7.4円」前週比-2.1  
 ※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】<次世代太陽電池「ペロブスカイト」を都心の建物外壁に、実証実験が始まる>

NTTデータは、フィルム型ペロブスカイト太陽電池を建物外壁に設置した実証実験を積水化学工業と4月から始める。外壁への設置時の課題抽出に向けて、4月から積水化学の開発研究所(大阪府島本町)外壁に設置し、風圧力など構造安全性を確保した設置方法を確認。2024年4月ごろからはNTT品川TWINSデータ棟(東京都港区)の外壁に設置し、都心部での発電効率といった実用性を検証します。安全性や発電効率を高める設置方法を実証し、今後全国にあるNTTデータ16棟のデータセンター(DC)、オフィスへの導入を拡大し、30年度に自社DCのカーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)化を目指すとの事です。積水化学が開発したフィルム型ペロブスカイト太陽電池は、軽量で柔軟性が高いことが特徴。都心の既存建物への設置も従来型と比べて容易で、都心部における再生可能エネルギーの地産地消の促進が期待できる。ペロブスカイト太陽電池はフィルムのように薄く、軽くて柔軟性のある次世代型の太陽電池。桐蔭横浜大学の宮坂力特任教授が発明した。壁や屋根、柱などの曲面に設置できるほか、電気自動車やIoT機器への搭載が見込まれる。既存のシリコン製太陽電池よりも安価に製造できるとして、普及が期待されています。複数の国内メーカーや大学などで実用化に向けた研究開発が進んでいます。